

《短 報》

二次性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定における ^{67}Ga -citrate シンチグラフィの有用性

大塚 信昭* 三村 浩朗* 曾根 照喜* 玉田 勉*
柳元 真一* 友光 達志* 福永 仁夫* 片桐 誠**

* 川崎医科大学放射線科(核医学)

** 永寿総合病院外科

要旨 二次性副甲状腺機能亢進症(SHP)にて副甲状腺切除術(PTx)が施行された37例に、術前に ^{67}Ga シンチグラフィを施行し、頭蓋骨と下顎骨の集積状態から病型を分類した。併せてPTx後の骨密度の変化を観察してPTxの手術適応の決定における ^{67}Ga の有用性を検討した。頭蓋骨・下顎骨集積群(13例)は、頭蓋骨集積群(6例)、下顎骨集積群(6例)や正常群(12例)に比して、Alpが有意に高値であった。intact-PTHは頭蓋骨・下顎骨集積群と頭蓋骨集積群で有意に高値であった。摘出副甲状腺重量には各群に有意差を認めなかった。 ^{67}Ga 正常群のうち、4例は骨シンチグラム上頭蓋骨や下顎骨への集積を示すSHP patternを示していた。PTx後の橈骨骨密度の変動では頭蓋骨・下顎骨集積群では6-12か月間に11例中10例上昇(1例:不変)を示したが、正常群では9例中1例のみであった。以上のことから ^{67}Ga シンチグラフィがPTxの適応決定に有用な情報を与えてくれると考えられた。

(核医学 36: 453-458, 1999)